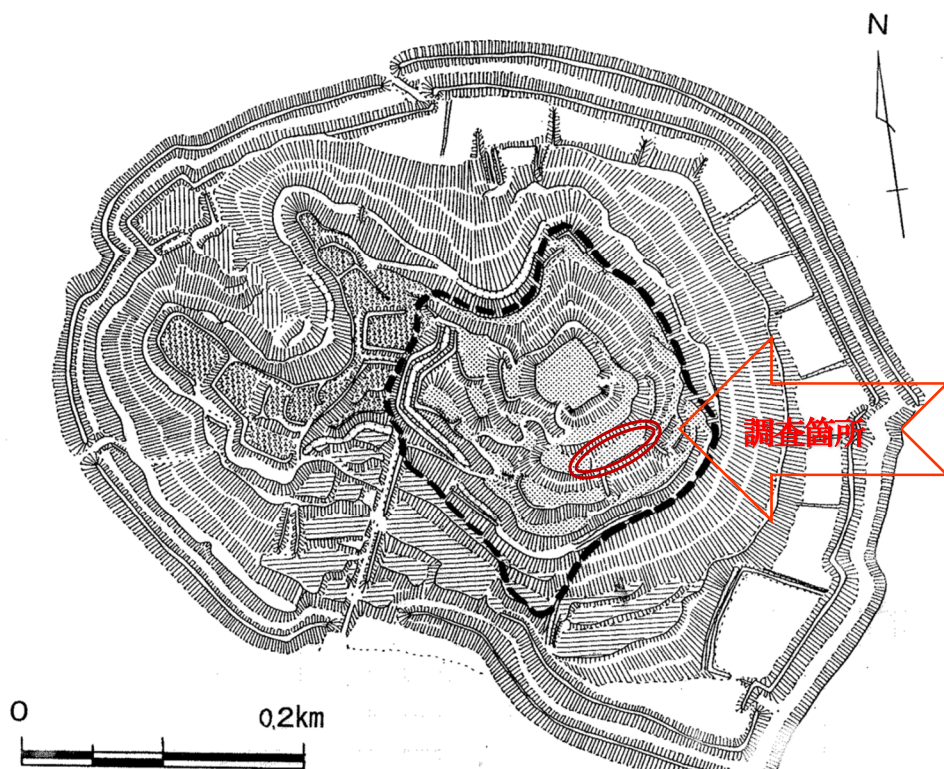


史跡小牧山主郭地区第4工区発掘調査 現地公開 資料

令和5年11月22日(水)～24日(金)

小牧山城縄張図
(破線の範囲が主郭地区)



春日井郡小牧村古城絵図(模写 部分拡大)
※十七世紀中頃 名古屋藩蓬左文庫所蔵



遺 跡 名

こまきやまじょう

小牧山城（国指定史跡 小牧山）

所 在 地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約 200m²

調 査 期 間

令和5年6月～令和5年12月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会

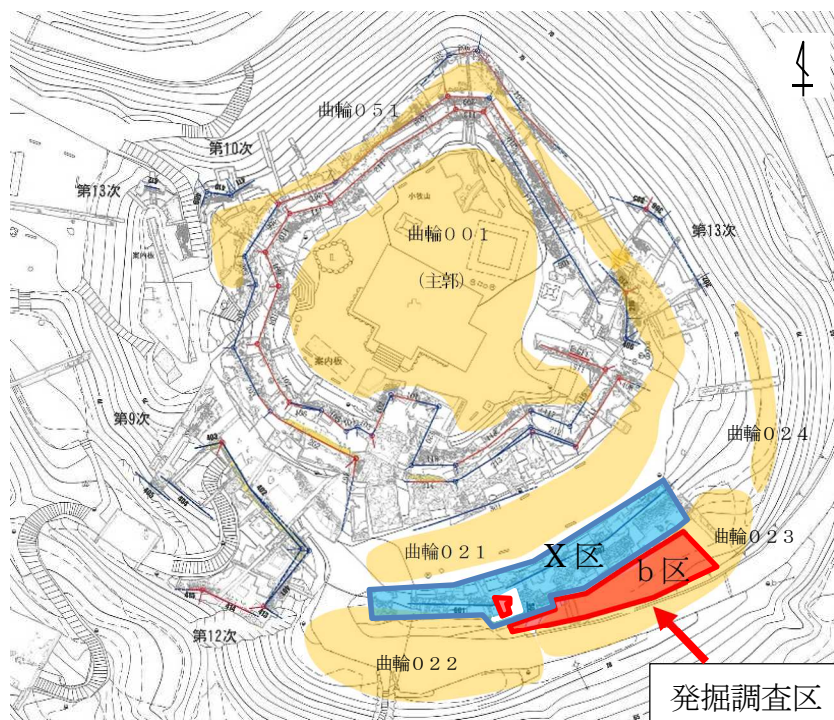


図1 調査位置（b区）

1 調査の概要

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は、史跡整備に伴う事前調査のため、4ヵ年の試掘調査と15ヵ年の発掘調査を経て、今年度が20年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年(1563)に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています（付表1）。

2 調査の目的

今回の調査区（以下b区と記載）は、小牧山の主郭（本丸）南側の2段下の曲輪022と曲輪023の山側に位置します（図1）。平成30年度に、すぐ北側の斜面と曲輪022、曲輪023の一部を調査した主郭地区第11次発掘調査（以下X区と記載）では、石垣と岩盤による壁面や礎石、玉石敷、溝を確認しました（写真1）。礎石の周囲に精微な玉石敷を巡らせていることや、付近から青磁の小碗片などの高級品である遺物が出土していることから、信長の館の一部の可能性を推定しました。

今回の調査では、X区で見つかった礎石に対応する礎石を確認し、建物の規模や配置を明らかにすることや、曲輪023の性格を明らかにすることなどを目的に調査を実施しました。

今回の調査で得られた成果は以下のとおりです。



写真1 X区調査風景（南東から）

3 調査成果（何が見つかったのか）

①調査区東側で礎石（図3内礎石Ⅳ－1～7）を検出。礎石建物を確認しました。

b区東側(曲輪 023)で礎石を検出しました(写真2)。礎石は、全て角礫です。柱間寸法は1間＝6尺(180cm)で、当時一般的であった6尺5寸(197cm)より狭い間隔で礎石が置かれています。各礎石の大きさや標高、間隔については表1や図3のとおりです。礎石Ⅳ－6 から南西方向に1間の箇所では、礎石が無くなった痕跡(抜き取り痕)の可能性のある落ち込みを確認しました(写真3)。

礎石の配置から、四方4.5m以上の礎石建物が想定されます。礎石は形状に違いがありますが、礎石の短径は20～27cmと比較的小さいため、それほど大きな建物ではないと考えられます。

これらの礎石には、据えたときの掘方が確認できないため、岩盤をほぼ水平に削平した後、曲輪を造成するのと同時に礎石を据えたと考えられます。

残念ながら、今年度の調査では、建物の全容を把握できるほど、礎石が確認できず、抜き取り痕もほとんど見つかりませんでした。残存している礎石を観察したところ、ほとんどの礎石は8～10cm程度、曲輪造成土内に埋まっており、礎石はしっかりと据えられています(写真4)。しかしながら、これらの残存していた礎石Ⅳ－3、5、7より東側は、曲輪造成土の層厚が5cm以下となっており、すぐに岩盤に至ります。このことから、礎石が外れたとしても明確な抜き取り痕が残らなかったのではないかと考えられます。

②X区で確認した礎石に対応する礎石は確認できませんでした(図4)。

当初、b区の西部では建物が検出されると想定し調査を行いましたが、X区で確認した礎石(写真5)に対応する礎石は確認できず、一部で攪乱があるものの、抜き取り痕もありませんでした。



写真2 礎石建物検出状況（北から撮影）



写真3 抜き取り痕か（写真上は調査区外）



写真4 礎石Ⅳ－2 近景（東から撮影）



写真5 礎石・玉石敷・溝検出状況
(X区) (東から撮影)

【礎石の大きさ、間隔】

X区で確認した礎石の大きさや間隔は、表1・図4のとおりです。また、この続きと考えられる礎石が今年度確認した礎石Ⅳ－8です。礎石の間隔は主に 150cm または 180cm となっています。

(※礎石Ⅳ－2と礎石Ⅳ－8が対応関係にある可能性も考えられますが、礎石の距離が 280cm であり、これらの礎石の間から礎石または抜き取り痕が確認できないため、礎石 11－6～9 に続くものとした(図3・4)。

【X区とb区の礎石の違い】

X区とb区の礎石の相違点としては2点あげられます。

①礎石の大きさ

短径で比較してみると、b区の礎石は、20cm 台の石材ですが、X区の礎石では、30cm以上の石材が含まれています。

②礎石の間隔

b区では、柱間寸法1間＝6尺(180cm)を基本としていますが、X区の礎石の間隔には、150cm と 180cm のものがあります。

【b区の礎石について】

X区で確認した礎石に対応する礎石がb区で検出できなかった理由として、X区で礎石を検出した箇所から南方に向かって、曲輪造成土が薄くなっていることから、建物遺構と同様に抜き取り痕が残っていなかった可能性が考えられます。しかし、明確な遺構面の削平が無いのにも関わらず、南側に展開する礎石のみが全てなくなっているというのも不自然です。

礎石の検出状況から、元々礎石が一行しかなかったのではないかという想定もできます。この礎石列に関しては、今後更なる検討が必要です。

③その他の遺構について

【I】石垣

石垣はX区で確認した石垣の続きを、b区西側の斜面で約1m確認しました(写真6)。石垣石材は横幅 32～43cm、高さ 20～32cmの自然石(小牧山産堆積岩)です。石垣石材の隙間に入っている小ぶりの石(間詰石)は角礫と円礫が使用されています(写真7)。



写真6 石垣検出状況 (南西から撮影)



写真7 石垣 近景

【Ⅱ】溝(図2 緑色網掛け部分)

X区で確認した玉石敷の西では、岩盤の際に掘られた溝を確認しています(写真8)。今年度はその溝の続きを検出することができました(写真9)。X区と同様に切り立てられた岩盤際に掘られています。曲輪023は、北東から南西に傾斜しているため、雨は北東から南西へ流れ、最終的には溝を通して、南側に排水されたと考えられます。

【Ⅲ】石敷遺構

礎石列の南で石敷遺構を確認しました(写真10)。大きさは短径 50cm、長径 57cmの楕円形を呈し、10～15cm程度の角礫と玉石(川原石)で構成されています。およそ 2/3 が角礫で、1/3 が玉石です。

これまでに小牧山の主郭地区では、庭園に伴う玉石敷遺構(主郭地区第 13 次発掘調査)など4箇所では石敷遺構を確認しています。それらの遺構は玉石で構成されていますが、b区の石敷遺構は使用されている石材に角礫が多く使われていることや、石敷の範囲が小規模であることから、主郭地区で見つかった他の石敷遺構とは違う性質をもったものと考えられます。

4 まとめ

b区の調査において、曲輪 023 で新たに礎石建物が確認され、礎石を伴う建造物群があったことが明らかとなりました。これらの礎石は、岩盤をほぼ水平に削平した後、曲輪を造成するのと同時に礎石を据えたことが想定されることから、山頂主郭地区において、信長が計画的な意図をもって建造物群の配置を行ったことがうかがえます。

写真9へ続く

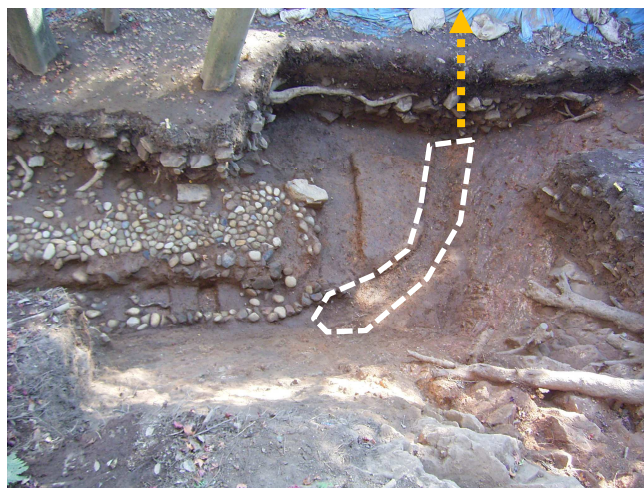


写真8 X区で確認した岩盤の際に掘られている溝
(写真上が南)



写真9 切り立てられた岩盤(写真奥)と溝(岩盤手前・破線部分)



写真10 石敷遺構(写真上が東)

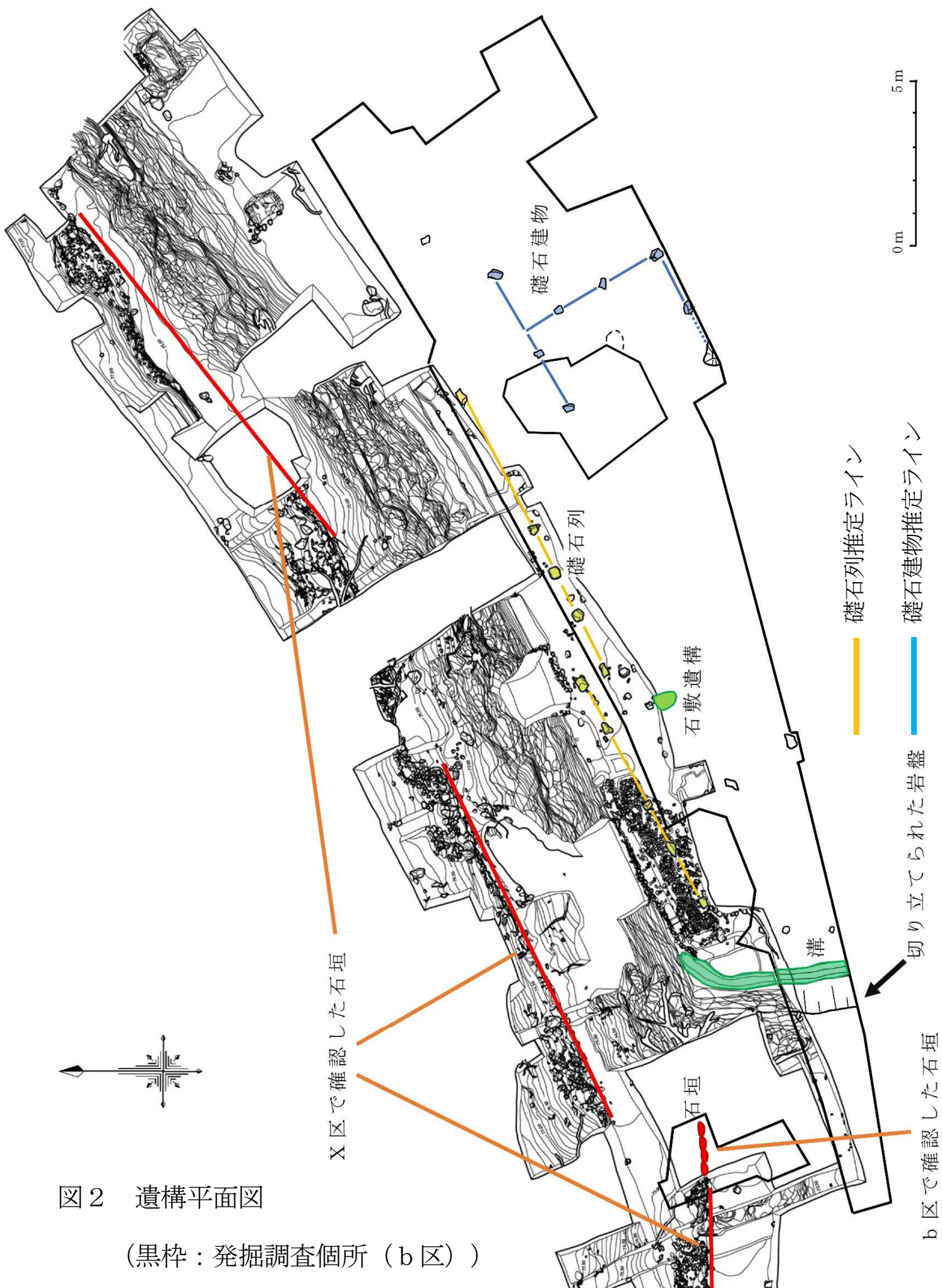
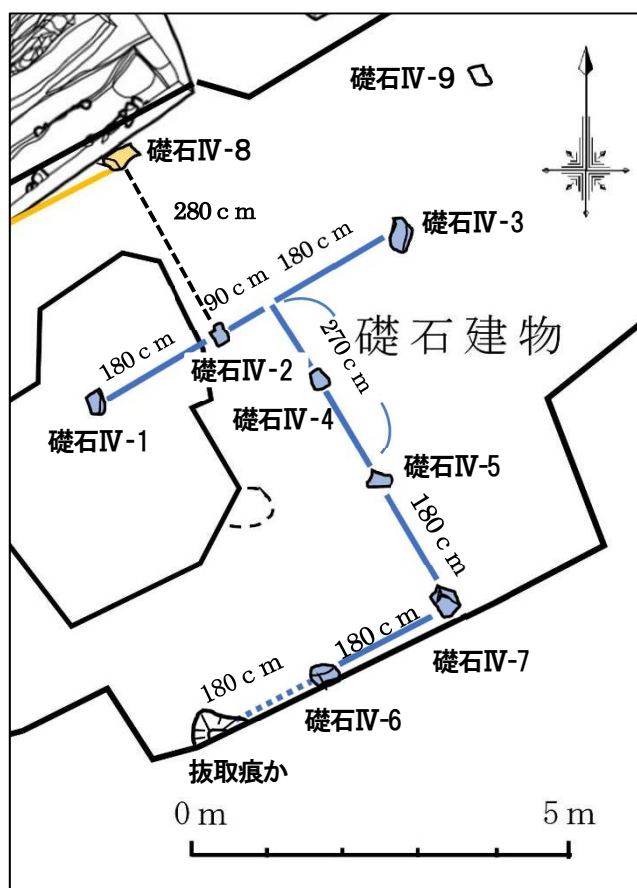


図2 遺構平面図

(黒枠：発掘調査箇所 (b区))



調査名	遺構	礎石番号	石材大きさ (cm)	礎石標高 (m)	備考
主郭地区 第11次 発掘調査 (X区)	礎石列	11-1	23×34	71.23	
		11-2	27×52	71.23	
		11-3	25×30	71.25	
		11-4	27×38	71.25	
		11-5	30×45	71.28	
		11-6	20×39	71.27	
		11-7	36×37	71.25	
		11-8	33×35	71.35	
		11-9	32×35	71.30	
主郭地区 第4工区 発掘調査 (b区)	礎石建物	IV-8	23×37	71.27	
		IV-1	(19×27)	71.27	立木の根の隙間から確認 したため、全容は不明
		IV-2	20×25	71.30	
		IV-3	27×36	71.30	
		IV-4	20×21	71.27	遺構面からやや浮いてい るため、原位置は留めて いないか。 礎石IV-1～3のライン と礎石IV-5が1間半離 れているため、その間に あった礎石か。
		IV-5	26×50	71.27	
		IV-6	21×47	71.28	
		IV-7	23×32	71.31	
		礎石建物？	IV-9	20×20	71.35

図3 礎石配置図（礎石建物）

表1 各礎石の基本情報

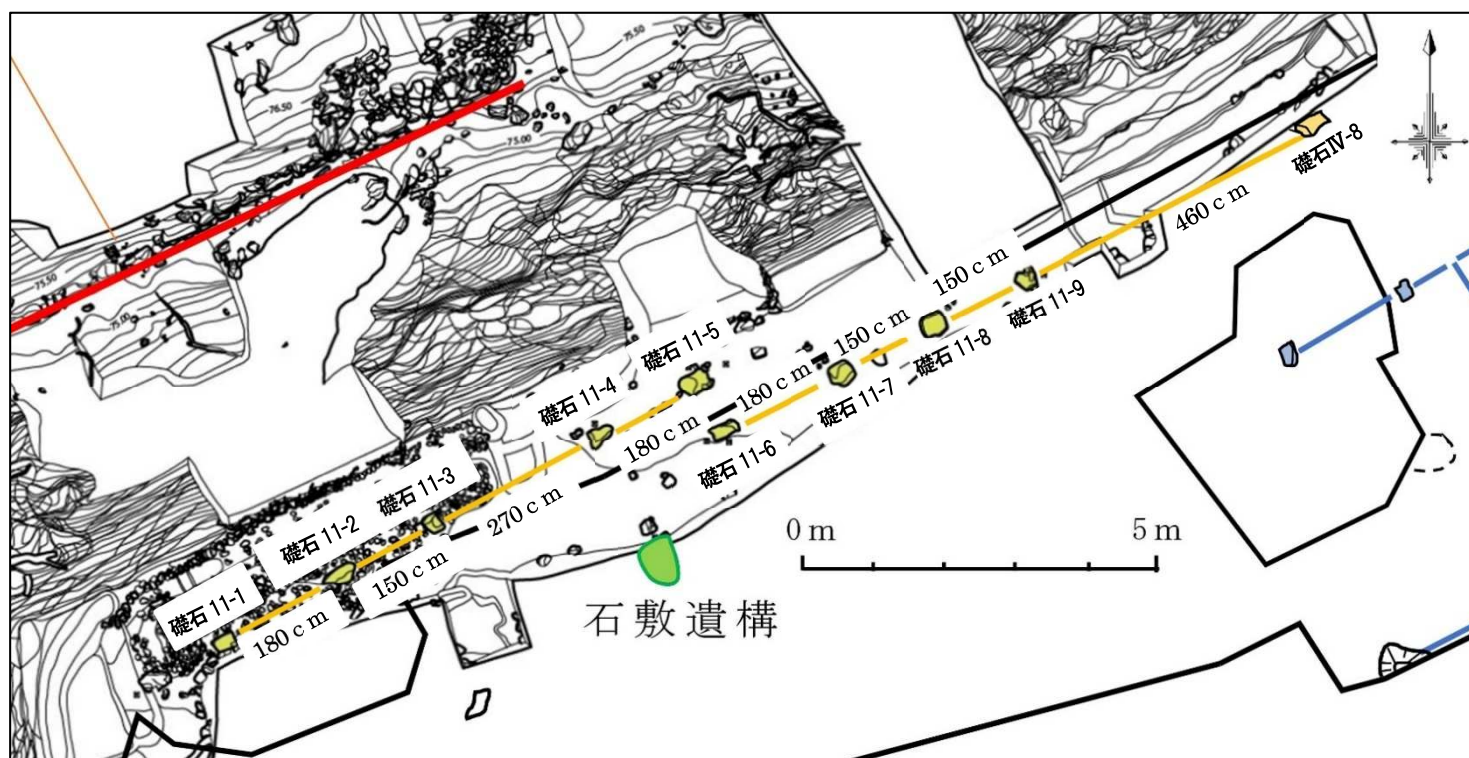


図4 礎石配置図（礎石列）

付表１：これまでの主な調査成果

調査年	調査名	主な成果
平成 17 年 (2004)	2 次試掘	石垣が 2 段であることを確認
平成 22 年 (2010)	3 次発掘	墨書石垣石材出土
平成 26 年 (2014)	7 次発掘	3 段目石垣を確認
平成 28 年 (2016)	9 次発掘	大手道で岩盤と石垣の壁面を確認
平成 30 年 (2018)	11 次発掘	「信長の館」の可能性のある建物跡を確認
令和 元年 (2019)	12 次発掘	大手道で岩盤と石垣の壁面を確認
令和 2 年 (2020)	13 次発掘	石垣と庭の可能性のある玉石敷遺構を確認
令和 3 年 (2021)	第 2 工区発掘	2 段の石垣と人工的に切りたてた岩盤で構成される大手道の壁面を確認
令和 4 年 (2022)	第 3・4 工区発掘	石垣Ⅲの背面で土留め石と思わせる石材を確認 曲輪 024 で玉石敷遺構の一部を確認

付表２：織田信長天下統一への過程と城郭

年 代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年 (1555)	22 歳	清須城入城	清 須 城：石垣なし	×
永禄 3 年 (1560)	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6 年 (1563)	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄 10 年 (1567)	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐 阜 城：巨石石積	改修
天正 4 年 (1576)	43 歳	安土城築城開始	安 土 城：総石垣	○
天正 10 年 (1582)	49 歳	本能寺の変		

付表3：小牧山の歴史

時 代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備。 織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。
	10年 (1567)	小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の合戦 (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 織田・徳川連合軍は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
	慶長年間	名古屋城築城。小牧山城の石垣石材を持ち出しか？ 小牧山は尾張藩領となり、家康ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	6年 (1873)	県立「小牧公園」として一般公開される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～令和	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町（当時）へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始（～平成20年まで：第1～4次調査）
	20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始（～令和4年まで：第1～13次調査、他）
	31年 (2019)	小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）オープン
	令和 3年 (2021)	主郭地区整備工事開始、小牧市創垂館保存修理工事
	令和 5年 (2023)	小牧山歴史館（旧名称：小牧市歴史館）リニューアルオープン

史跡整備工事実施中です

小牧市では、市のシンボル「小牧山」の整備を進めています。

山頂一帯で、これまでの発掘調査成果を反映して、石垣の復元や園路の整備等を行います。工事は5か年に分けて実施する計画で、今年度は小牧山歴史館南側部分（右図参照）を整備しています。工事期間中は山頂の一部が利用できなくなります。また、山の中を工事車両が往来します。

整備工事中はご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

小牧市教育委員会 小牧山課

